

呉と太平洋戦争

呉と太平洋戦争

1. 太平洋戦争 昭和16(1941)年～

昭和16(1941)年12月8日、日本は

ハワイの ① 湾を攻撃し、

太平洋戦争が始まりました。

日本ははじめは勝利を重ねたものの、次第にアメリカの反撃も強まり、戦争は長期化していきました。



▲真珠湾攻撃 (日本軍の攻撃により炎を上げるアメリカ海軍戦艦ウエストバージニア)

呉では・・・

太平洋戦争が始まると、日本の艦艇の建造・修理をになう呉海軍工廠は、重要な役割を果たすようになり、多忙になっていきました。



▲空襲直後の呉海軍工廠(昭和20年)

しかし、戦局が悪化してくると、日本最大の海軍工廠があった呉は、アメリカ軍の空襲の標的となり、14回にもおよぶ空襲を受けました。昭和20(1945)年3月から始まった空襲は、工場や停泊中の艦艇に向けられていましたが、7月には市街地への大きな空襲がありました。この空襲によって、多数の一般市民が犠牲となり、市街地は焼け野原となりました。

2. 戦時下の市民生活

戦局の悪化とともに、市民の生活は戦争一色になりました。多くの成人男性は徴兵され戦地へ向かい、残った女性たちは地域で勤労奉仕や配給業務を行いました。

学徒動員

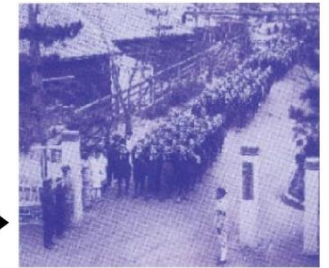
戦争が激しくなり長期化してくると、労働力不足のため、②以上の生徒は軍需工場などに動員され、働かなければなりません。また、昭和20(1945)年には、②以上の学校の授業は停止されました。

終戦までに動員された学徒は340万人を超えたとされています。

空腹や疲労と戦いながら、慣れない仕事に取り組んでいただね。



寄宿舎から出勤する女子学徒 (阪上芳氏寄贈)



学童疎開

空襲で危ないとされた都市部の③は地方へ「疎開」しました。疎開先で児童たちは、空腹や家族と離れた寂しさを我慢しながら、辛い生活を送りました。

※親戚のところへ行く疎開を「縁故疎開」、学校ごとに先生と行く疎開を「集団疎開」と言いました。



▲五番町国民学校集団疎開